

大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■クラブ創立：2000年1月13日
 ■例会日：毎週水曜日（12：30～13：30）
 ■例会場：中部コミュニティセンター TEL.0475-73-3337 FAX73-4360
 ■事務所：〒299-3251 大網白里町大網450-6 ユアサビル2階 TEL.0475-70-0200
 ■会長：宮間 文夫 幹事：大越 将司
 ■広報・公共イメージ向上委員会 委員長 石田 英世 副委員長 小高 徹



2019年1月9日(水)

第20巻 第24号

通巻第885

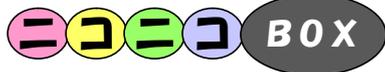
http://www.oamirotary.com
 E-mail rc@oamirotary.com



本日の例会

点 鐘 会長 宮間 文夫
 唱 和 四つのテスト
 ソング 奉仕の理想
 会長挨拶 会長 宮間 文夫
 幹事報告 幹事 大越 将司
 <プログラム>

- ①奨学金授与式 ナディーシャさん
- ②誕生祝
 清宮建治会員、堀本孝雄会員
 西岡 毅会員、山岸健一会員
 石田英世会員
- ③会員卓話 矢部慎一会員



なし

例会日	12月19日	12月5日
会員数	30	30
出席	17	22
欠席	13	8
MU	0	3
免除	1	0
出席率	60.00	83.33

会長挨拶



宮間文夫会長所用の為、堀本孝雄直前会長
 代読・挨拶

<宮間文夫会長挨拶>

皆さん、こんばんは。いかがお過ごしでしたでしょうか？
 今日は、日中、ゴルフ同好会のコンペがありました。
 ゴルファーの会員の方々は、楽しめましたでしょうか。

さて、本日の例会をもちまして、平成30年、大網ロータリークラブ最後の例会です。重ねて会員の皆様のご協力により、本年の行事が滞りなく終了した事に心から感謝申し上げます。

流行語大賞に、北海道北見市のカーリングチームが話した「そうだね」が選ばれました。
 来年も皆様にとって良い年になりますようにお祈り致しまして 挨拶とします。
 ありがとうございました。

<堀本孝雄直前会長挨拶>

皆様今年1年どうもお疲れ様でした。
 今日は、宮間会長がどうしても出席できないということで、パスト会長であります堀本がご挨拶させていただきます。

ロータリーでの年度は半ばであります。その中でも大網RCにもいろいろ大変なことがありました。
 今年の忘年会のお酒は、そういった意味で格別の味わいではないかと思えます。
 とはいえ 忘年会は、いわば1年間の厄落とし、憂さ晴らしの場です。
 今日は、大いに飲み、食べ、来年へ向けての鋭気を養って下さい。

忘年夜間移動例会

2018年12月19日(水) はせ川にて





会員卓話

12月12日(水) 会員卓話 四之宮由己会員(紙面都合により885号に掲載させていただきます。)

「医療技術の進歩」

今日は私の心臓の脈拍数が低すぎたために、ペースメーカーを入れたお話をいたします。私達の通常の脈拍数は、1分間に60~70回ぐらいが正常と聞いております。私のかかりつけの佐久間医院で測定しましたところ、平均が40回ぐらいの数字でしたので、先生から、ふらふらしませんか?とか、体重を減らすようにとか、水分補給をかかさないとかのアドバイスはされておりました。11月中旬の測定時には、36回という低い数値が出ました。先生も心配して、東千葉メディカルセンターへ紹介状を書くから行くようにと奨められました。担当医の若林先生に再検査して頂きましたところ、脈拍数は30回とさらに少なく、心臓を写すカメラで見た心臓の働きが、ゆっくりゆっくりと動いているのが写し出されて、これが自分の心臓だろうか聞き直しました。若林先生は、急いでペースメーカーを入れる(植え込み)ことを奨めてくれました。病名は、(徐脈性心房細動) だそうです。四之宮さんは、刺激伝導系に問題が有り、脈拍の遅れを感知すると正常に保つよう補助的に電気信号を送る(リードスペースメーカー) という医療機器を植え込む方法が良いと説明してくれました。(ペースメーカー) は、2種類ありまして、今まではリード付きペースメーカーのタイプしかありませんでしたが、2017年リードスペースメーカーが登場しました。

リードスペースメーカーは…
(小さなカプセル型をしており、大きさは直径7mm×長さ約26mm、重さは約2gで(1円玉2枚ぐらい) 電池の寿命12年) だそうです。



ほぼ実寸大

リードスペースメーカーは、右ももの付け根の所から大きな血管(静脈)を通して、心臓の近くまでカテーテルを入れて運びます。心臓の右心室の壁に固定し、正常な作動する事を確認してからカテーテルを抜きます。局所麻酔ですから、どこまで入っているか、今何をしているかがわかります。一般手術のように切開しないため、大きな傷口も残らず、1時間ぐらいの手術で終わりました。ベッドに帰って来た時の事も、意識の中にはっきりわかっておりまして、ホッとしております。後は、右ももの付け根の傷口からの出血を止める事を優先し、右足を上げずに静かにしている事を心掛けていけば、早く治りますと言われました。手術日(11月21日)の翌々日の午後には退院し、すべて順調に経過しまして、手術した事を知らなかった方々も多かったのではと思っております。

このように近代医学の進歩はめざましく、命拾いした私は、手術をして良かったと心から思っております。東千葉メディカルセンターの立派な施設、入院室の利便性も素晴らしく、さすが近代的な病院が私達の身近にある事が誠に心強い限りです。そして、お世話になった佐久間先生、若林先生、手術をして下さり画像まで提供してくれた施行医の金枝先生、上田先生の技術力の高さに感心しておりました。又、入院室では、寝ずに看病してくれた看護師の方々にも厚くお礼を申し上げます。このたびの4日間の入院生活では、家族の有り難さを改めてしみじみと感じた次第です。特に本納ご嫁に出した一人娘の活躍がめざましく、介護士の免許を持っているためか、送迎から受付、医師との対応、入院の手続き、入院準備、会計、市役所との身体障害者の手続き、ペースメーカー手帳、カードの発行、注意事項まで、すべての事を1人でやってくれて、私はいほとんど何もせずただ付いて行っただけでした。この4日間の出来事は、日頃の自分の不摂生から起きた事で、今後の自分の生き方に指針を与えてくれました。気付くのが遅いのですが、健康には十分気を付けて余生を送りたいと思っております。皆様方も体調管理には十分気をつけて、毎日をお過ごしなされますようお願い致します。